

2025年1月

夕時雨塾のあかりの煌めけり 小鳥きて折れさうなりし寒千両 空明くや淑気確かに満ちている 冬びえやピンと背中を伸ばしたり 冬の月とぎすまされて息つけり 聖夜来る孫たち皆ホッペ赤くして 外国の安物買うて損をする 正月に菜の花咲ける伊良湖岬	水仙が節分までは待てと言ふ 元日や厄除けだんご届きけり 夫共に米寿を迎へ日々新た 硝子戸の室より見つむ枯れしにわ 三島大社にて 遠き地に行く父送れし白き富士 初詣激動の昭和の厄払ひ ぽかぽかの陽気に誘われ鳩乱舞
--	--

2025年2月

冬薔薇鉄より堅き蕾持ち 文旦の瑞々しさやいのち伸ぶ 一步づつ踏みゆく先に仏の座 グランドの小石ぼくぼく冬ざるる セーターに一つ色足し憂き忘る 寒椿色なき寺にあかあかと 駅前にロックひとりとからっ風 白和へや遠き昔を偲びつつ 初午や遠き昔の物語	ボケ防止世相移して五七五 楽しみの凧出来上がり笑顔呼ぶ 凧の絵や個性豊かにできあがり 凧づくり爺も婆も若返り 爺婆も子らといっしょに凧揚げる 寒風に凧あげ夢中爺と婆 木枯らしに吹き上げられし子らの凧 手作りの凧あげはしゃぐ母子かな
---	--

2025年3月

荒れ果てし梅咲く寺の募金箱 非通知の電話また鳴る寒戻り 桜咲き包める海ぞ微笑めり 春風や口笛のせて漕ぐバイク よく見れば数多の仏立ち咲けり 階段にはずかしさうに仏の座 春雷に慌てて閉める雨戸かな ねむりからさめたかんばせヒヤシンス	三月誕生の女孫心立つ 春場所や大入り満員平和よき 麻田雅文著「日ソ戦争」を読んで 無理もない加藤陽子の絶賛 無条件突きつけられて負けを知る 玉音の後は知らない我先に やられたらやり返すまで生き地獄 動物の本性丸出し懲り懲りや
--	---